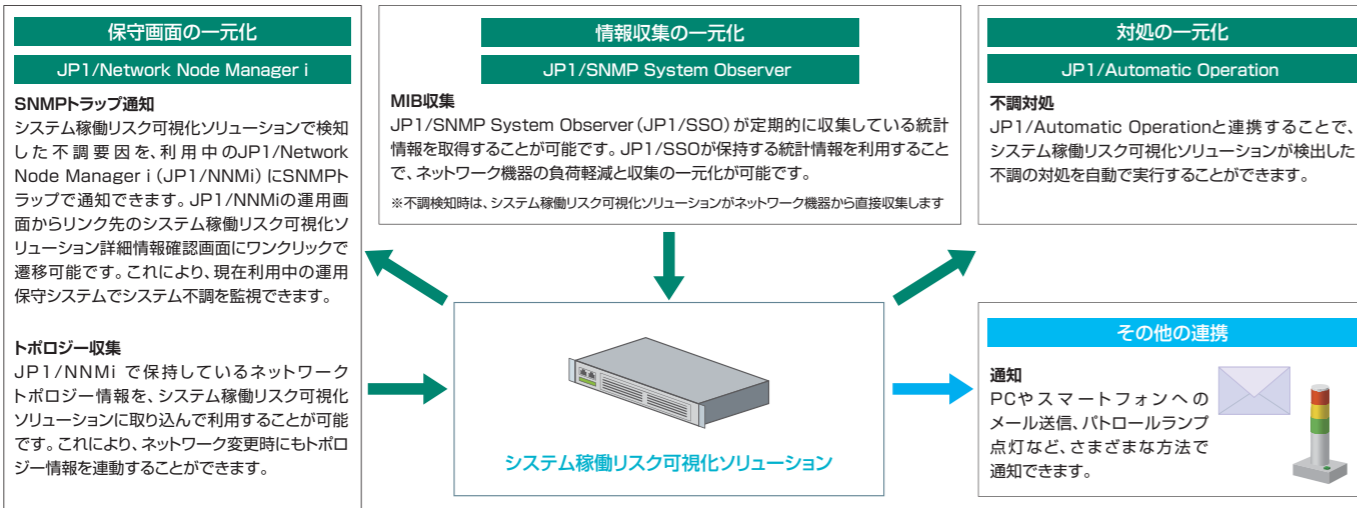


連携製品

■**統合システム運用管理JP1製品と連携した監視運用**
 JP1製品と連携することで、システムの監視から調査・対策までの一連の監視運用をさらに効率的に行えます。例えば、JP1/Network Node Manager iと連携して、システム稼働リスク可視化ソリューションで検知したイベントをJP1画面から確認できます。また、JP1/SNMP System Observerと連携して、定期的に収集している統計情報の集約が可能となります。

■**他装置と連携したシームレスな詳細確認**
 SNMPトラップによって他の管理サーバやパトロールランプへの通知、PCやスマートフォンへのメール送信など、さまざまな方法で他装置に通知できます。



・HITACHI、JP1は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。
 ・その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

●カタログに記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。
 ●本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
 なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

- 「システム稼働リスク可視化ソリューション」に関するホームページ
<http://www.hitachi.co.jp/rvs/smfvs/>
- インターネットでのお問い合わせ
<http://www.hitachi.co.jp/network/contact/>

◎株式会社 日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部

止められないシステムだからこそ
 不調をいち早く検知して
先手先手の対策を。

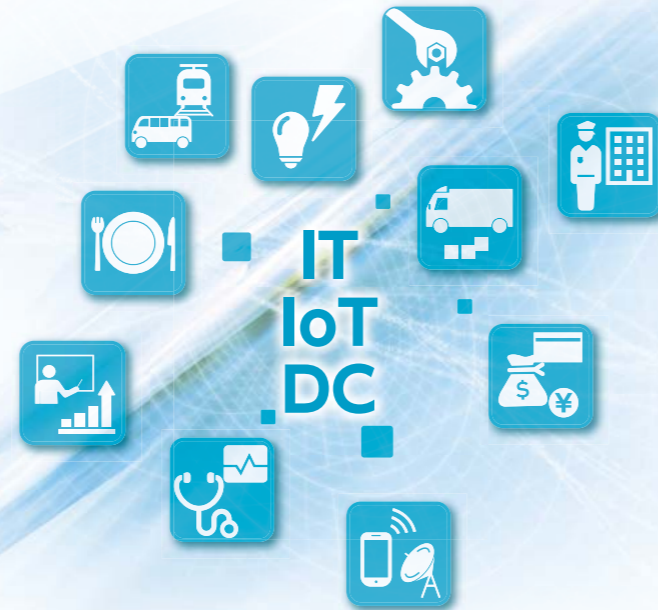


システム稼働リスク可視化ソリューション

高度化、複雑化するシステムの不調を ネットワークを流れるデータの挙動変化から検知。 要因推定と併せて迅速な解決をサポートします。

IoT導入の加速、ITの高度化などによって、システムを構成する機器や通信の連携は、より複雑で広範になりその稼働状況の監視も困難になっています。「システム稼働リスク可視化ソリューション」は、ネットワークを流れるデータを収集・分析することで、システム全体をふかんに監視することが可能。潜在的な不調の検知とその要因推定を併せることでより迅速な対処と復旧を可能にし、さまざまな業種・分野でシステムの安定稼働を支えます。

IoT : Internet of Things DC : Data Center



システム稼働リスク可視化ソリューションは——システム運用のこのような課題にお応えします。

ユーザーから指摘される前にサービス不調を発見したい。

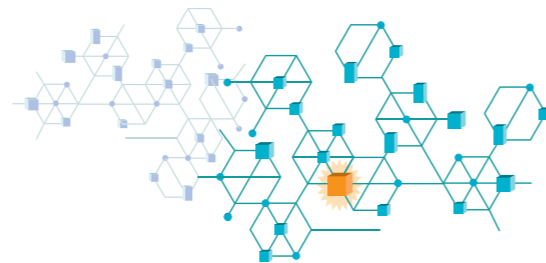
サービスプロセスの負荷増大によるアプリケーションのスローダウンなどにも、障害発生前の不調検知と要因推定によって早期対処が可能です。また、アラームによって発見できないサイレント障害の検知にも有効です。



▶ユーザーが体感しているスローダウンなどをAI技術を用いて検知

システムが複雑化していて不調箇所の切り分けが難しい。

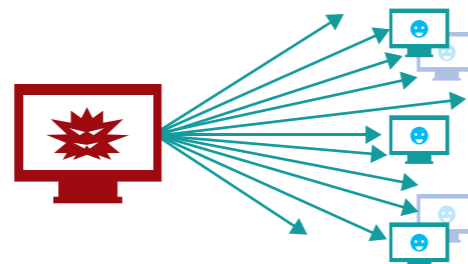
障害アラーム監視ではなく、システムを流れるデータを収集・分析して不調検知や要因推定を自動で行うため、サプライチェーンなどの複雑なシステムでも迅速な発見と切り分けが可能。基盤システムの安定稼働を支えます。



▶スキルが求められる保守切り分けをサポート

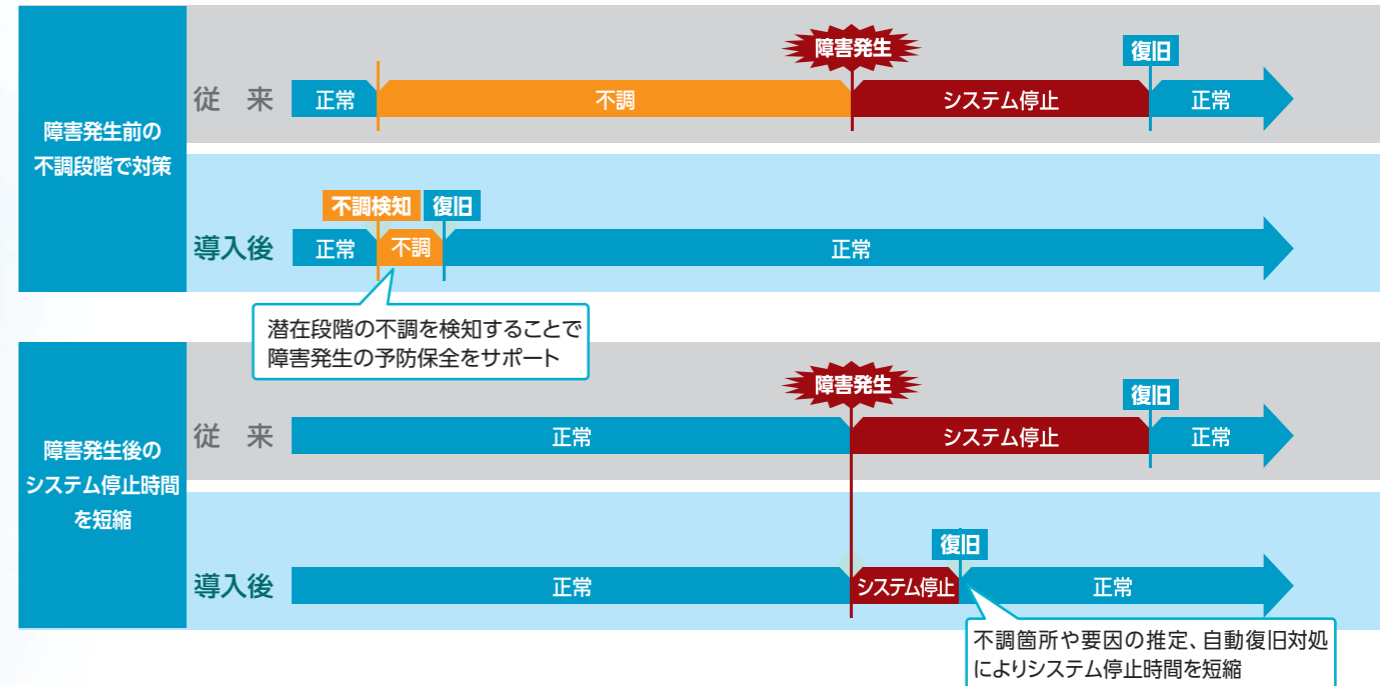
早期発見でワーム型マルウェアの拡散を防ぎたい。

一次感染PCのドアック活動を検知する拡散活動検知機能と複製作業トレース機能によって、ワーム型マルウェアの被害拡大を防ぎます。また、管理外PCの接続を検出するなど、セキュリティの維持にも貢献します。



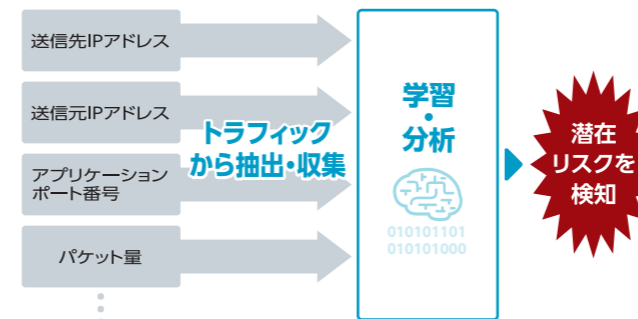
▶ワーム型マルウェアの二次感染の拡散を防止

障害を未然に防ぐ**予防保全**に 障害発生後の**システム停止時間の短縮**に効果を発揮!!



障害発生に至る前の不調を早期検知

ネットワークを流れるデータを収集し、AI技術など複数の検知手法を組み合わせて分析して、挙動変化を障害に至る前の不調として検知します。



保守ノウハウの活用でリスク要因を自動推定

潜在リスクを検知した場合は、疑わしいと思われる機器やサービスの情報を収集、分析。根本原因の絞り込みを行うことで、不調の要因を迅速に推定して通知します。



グラフィカルな表示で直感的な把握が可能

検知した不調の箇所を、ネットワーク構成図(トポロジー)に表示。システム全体の一元的な監視と、潜在リスクの直感的な把握を可能にします。さらに、通常時の通信エラー傾向、通信量が多い端末などの状態も、グラフの確認によって把握できます。



システム全体をふかんに監視可能

ネットワーク化されたシステム全体の状態を、トラフィックから端末、ネットワーク、サーバまでリアルタイムにふかんに監視することができます。

既存のネットワークにも導入が容易

既存のネットワーク構成を変更することなく、システム稼働リスク可視化ソリューションを導入できます。接続する際に、システムを停止する必要がありません。導入後も、ネットワークのスループットに影響を与えません。